

## H23年度共同講義「久留米の生活と環境」

開講日時	講師	演題	講義内容	会場
10月7日(金)	藤田 八暉 (久留米大学経済学部教授)	地球環境問題と温暖化防止対策	21世紀の最大の課題となっている地球環境問題について、その要点を概説したうえで、特に地球温暖化問題について、温暖化防止のための国際的な取組の経緯と我が国の取り組みの状況について解説する。	くるめりあ 六ツ門
10月11日(火)	池鯉鮒 悟 (久留米工業大学建築・設備工学科教授)	CO2 排出削減に関連する技術・トピックス	CO2排出削減が大きな課題となっています。東日本大震災によるCO2を排出しない有望なエネルギー源であった原子力発電の事故によって、状況はますます厳しくなっています。そのために原子力発電に頼らずにCO2削減に貢献するための、省エネルギーや新エネルギーに関する技術の研究、一般にはあまり知られていない気象関連のトピックス等について紹介します。	
10月14日(金)	生地 暢 (久留米信愛女学院短期大学 フードデザイン学科講師)	「里海」について	里海とは、人の暮らしと自然の営みが密接な沿岸海域を指します。この里海の環境を守るため、どのような取り組み・活動などが行われているかを紹介します。	
10月18日(火)	伊佐 淳 (久留米大学 経済学部教授)	まちづくり（地域づくり）とNPO、社会的企業－事例から読み解く－	本講座では、「新しい公共」の担い手として注目されているNPOやコミュニティ、ビジネス、社会的企業の各地域における取り組みを紹介します。さまざまな事例を通じて、参加者の皆さんには、筑後地域も含めて各地域における「まちづくり（地域づくり）」のあり方について考えて欲しいと思います。	
10月25日(火)	藤田 雅俊 (久留米工業高等専門学校 機械工学科教授)	環境・エネルギーとまちづくりのデザイン	東日本大震災以降、被災者支援の在り方、災害に強いまちづくりや、脱原発・電力不足への対応、自然エネルギーへの移行など、これまでの日本が見て過ごしてきた様々な転換点が浮き彫りになってきています。このようなパラダイム・シフトについて、テクノロジーをユーザーである人間に近づけることが求められる「デザイン」の分野から考えます。	
11月1日(火)	黒木 正一郎 (久留米市環境部環境保全課 課長補佐)	久留米市の公害行政	これまでの公害行政の歩みや大気汚染、水質汚濁などの環境データについて昨年度の結果や経年変化などについて説明します。	
11月8日(火)	岡部 千鶴 (久留米親愛女学院短期大学 ビジネスキャリア学科教授)	久留米市の女性を取り巻く生活環境	久留米市の男女平等政策は全国でも有数の水準です。ひとり親家庭やDV被害女性への支援策を例に久留米市の取り組みを学び、さらなる男女共同参画社会実現に向けて共に考えましょう。	
11月15日(火)	瀧崎 裕子 (久留米大学 文学部教授)	認知症高齢者の環境づくり	認知症高齢者にとって、どのような環境が望ましいかということに関し、物理的・社会的/ケア的・運営的環境の3つの側面から解説する。さらに認知症の人が住み慣れた地域で生活を継続することの重要性について述べる。	
11月18日(金)	中嶋 裕之 (久留米工業高等専門学校 生物応用科学科教授)	環境の中の地衣類とその工業的利用	地衣類は、久留米市内でも樹木の幹や石の表面等で見られますが、真菌類（地衣菌）と緑藻や藍藻（共生藻）との複合生物です。過酷な環境に対する耐性を有し、抗菌活性等の生理活性物質を産生します。本講義では、地衣類の基礎と工業的利用法について解説します。	

11月22日(火)	白石 元 (久留米工業大学 機械システム工学科准教授)	生活の中で用いられる経験や勘をコンピュータに理解させる方法 (ファジィ推論概要)	普段の生活の中で私たちは、あまい言葉 (例えば「ちょっと涼しく・・・」とか「少し強く・・・」など) で会話を交わし、コミュニケーションや感情の状態を理解し合っている。また、現在まで自動化されていない工業技術の一つは「職人技」のような、経験と勘に頼った「人間でなければできない」と思われている分野である。今回、これらをコンピュータに理解させる可能性があるファジィ推論の概要について述べる。
12月6日(火)	河野 央 (久留米工業大学 情報ネットワーク工学科准教授)	生活を豊かにするデジタルグラフィックス	我々の暮らしには、多数のデジタル機器が欠かせないものとなっており、それらに表示されるCGやゲームに代表されるようなグラフィックスを多用したコンテンツは、生活を豊かにする存在となっている。この講義では、デジタルグラフィックスの特性について、様々な視点からアプローチしながら、私たちの暮らしを豊かにするデジタルグラフィックスの役割と今後について議論する。
12月9日(金)	三原 信彦 (久留米親愛女学院短期大学 幼児教育学科講師)	アートを読む	現代アートから古典的の日本絵画まで。芸術の起源と表現の歴史を俯瞰し、人間がなぜ芸術を希求するかを読み解く。制作者、表現者の立場から、芸術の成り立ちおよび表現することの意義や目的について考察してゆく。
12月16日(金)	桃井 雅子 (聖マリア学院大学看護学部 准教授)	母性を考える	皆様は「母性」と聞いたとき、どのようなイメージを抱かれますか? 女性の「妊娠・出産」と「母性」にはどのような関連があるのでしょうか? また「母性」とはどのように育まれるのでしょうか? 既存の考え方 (理論) や、具体的なケースの紹介を通して、皆様方とともに「母性」について再考するひとときを持ちたいと思います。
12月20日(火)	竹元 仁美 (聖マリア学院大学看護学部 准教授)	家族を看 (み) る	現代の家族の形態は従来と大きく変化しており、それに伴ない家族の果たす機能も脆弱化しているといわれています。もし、家族メンバーの誰かが病気になった時、家族はどのように対処するのでしょうか。実際のケースを通して、家族に関する基礎的な理論と家族の持つ力を引き出すケアについてご紹介します。
1月13日(金)	小川 正子 (聖マリア学院大学看護学部 講師)	中南米を中心とした異文化理解	グローバル時代においては、自分とは異なる文化的背景をもつ人々と、とりわけ開発途上国の人々と接触する機会が増え、異文化理解の重要性が増している。そこで、この講義では、ラテンアメリカの文化を具体的な事例で紹介するとともに文化人類学的視点からみた異文化理解について解説する。

くるめりあ  
六ツ門